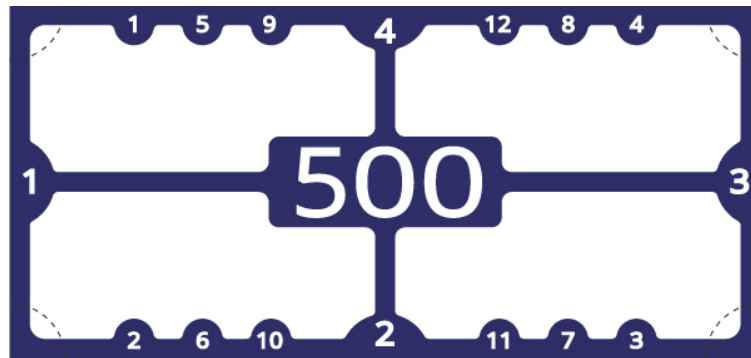


# 紙幣型、減価通貨のしくみ



# はじめに

「紙幣が減価する… 価値が棄損する… 紙幣を破ってしまえ！」

こうして、減価する紙幣通貨が誕生しました。

減価する通貨は有効ですが、問題は「減価させる具体的な方法」です。地域通貨に関する書籍はたくさんありますが、具体的な仕組みに触れる書籍はほとんどありません。

(そんな、無責任な…)

正直そう思うのですが、不平不満を言っても仕方ありません。唯一、ヴェルグルの成功例の中でその方法が紹介されています。しかし、「窓口を設け、人員を配置し、減価用の切手を売る」などという手法が、個人レベルの地域通貨の運営で実現できる訳もなく、ここで途方にくれてしまうことになるのでした。

2020. 04. 09

地域通貨推進協議会

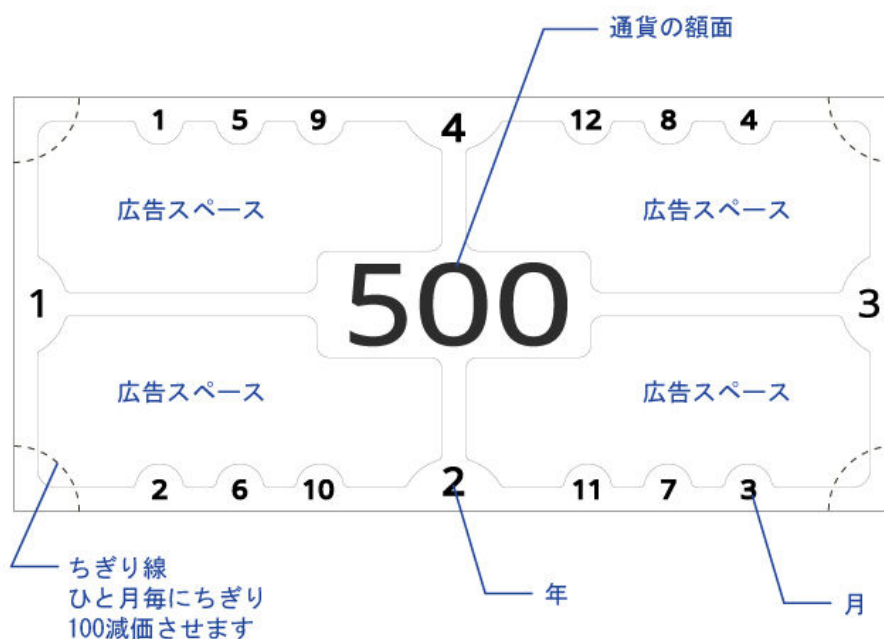
大岩 英義

# 目次

はじめに .....	2
目次 .....	3
紙幣型、減価する仕組み .....	4
図柄や数字の説明 .....	4
広告スペースの意味 .....	4
印をつける .....	5
印をつける意味 .....	5
発行月は額面通りの価値で使える .....	6
発行の翌月は、ちぎらないと使えない .....	7
次の月も以下同様 .....	8
紙幣であることの意味 .....	9
500 という単位の意味 .....	10
通貨の大きさ .....	11
通貨の名称 .....	12

# 紙幣型、減価する仕組み

## 図柄や数字の説明



## 広告スペースの意味

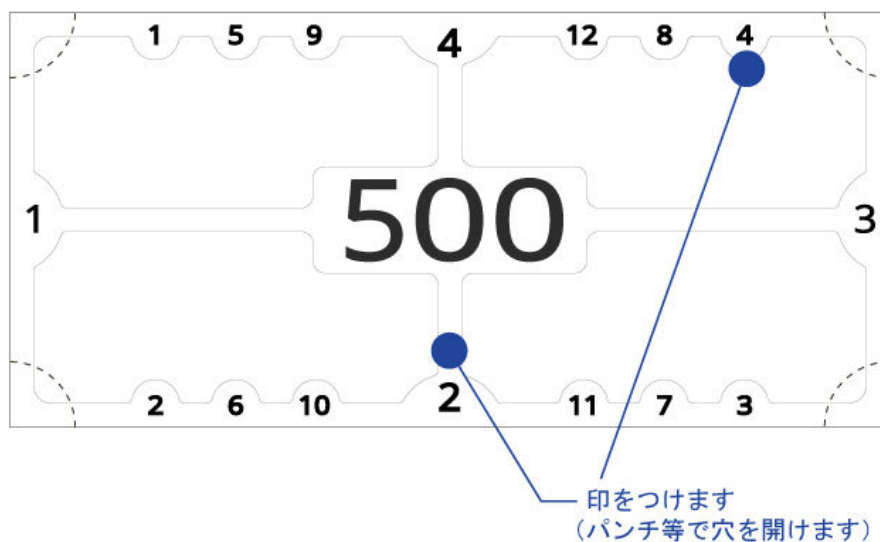
通貨の運営を考えた場合に、壁になるのが運営費の捻出です。

資金には限りがありますので、資金の限界が運営の限界になってしまいます。継続的な運営を考えた場合、発行数の増加に従い利益が増えていく形にしなければなりません。

通貨を広告媒体として扱うことで、運営費を捻出し、運営の継続化を図ります。この形であれば、通貨発行量が増えれば、広告収入も増えますので、システムが破綻しません。

## 印をつける

令和2年4月1日に発行した場合



通貨を発行する（手渡す）の令和2年4月1日の場合です。

令和2年の2の数字と、4月の4の数字に印をつけます。  
ペンで印をつけてもいいのですが、誰もが一瞬で理解できるように、パンチで穴を空けることをお勧めします。（穴を空けることにより、視覚障がい者の方にも利用して頂けることとなります。）

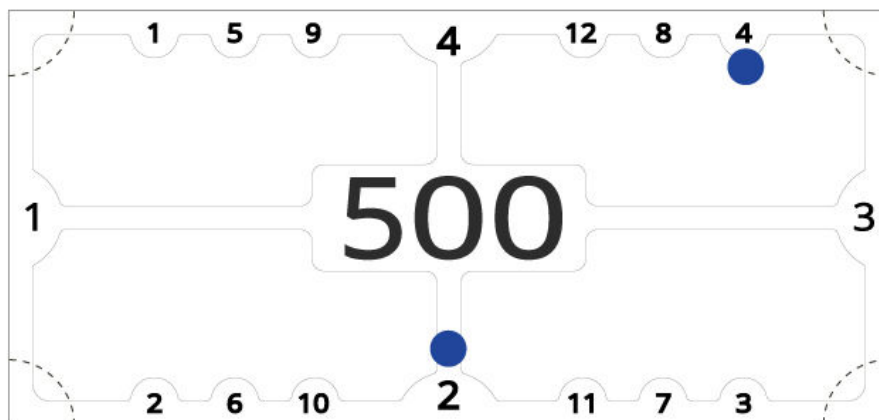
令和3年5月の場合は  
令和3年の3の数字と、5月の5の数字に印をつけます。

## 印をつける意味

印をつけなければ、いつから減価しているのかが分からなくなります。  
年に印が必要なのは、発行から1年経過した時に、通貨を再利用されてしまうことを防ぐためです。

## 発行月は額面通りの価値で使える

令和2年4月中は、額面通り500の価値として利用できます。

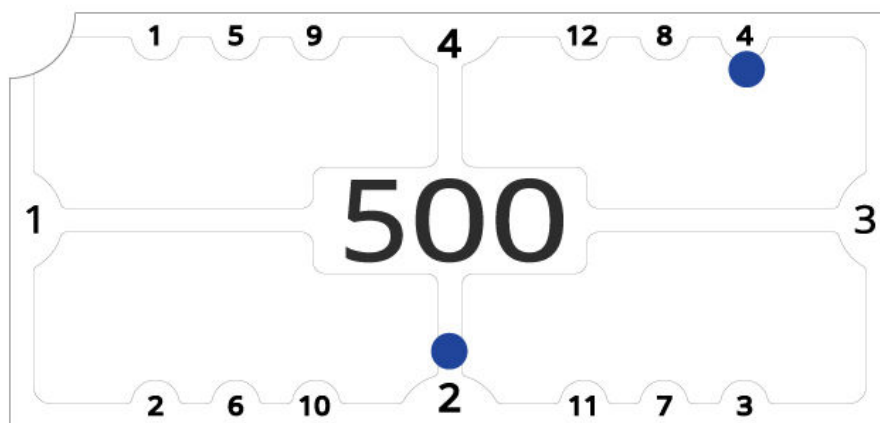
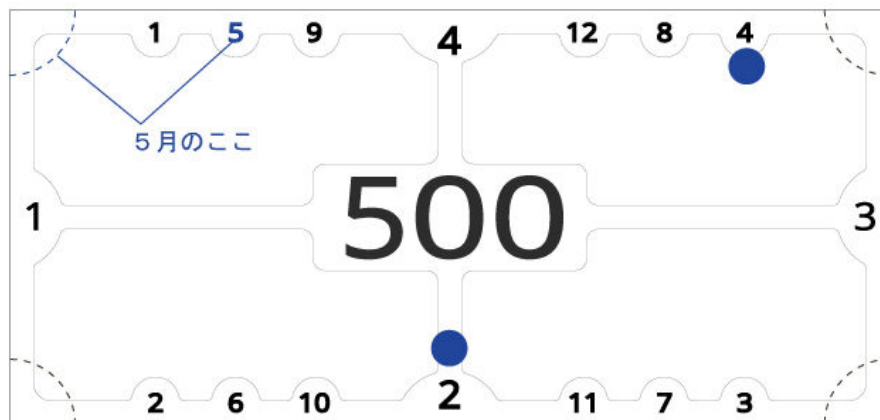


発行月（この場合4月の間）は、額面の500の価値として利用できます。単位が円であれば、500円として利用できます。

4/1に発行するのと4/30に発行するのでは、額面で利用できる期間に1ヵ月もの違いが出てしまいます。少し不公平ですが、損したくない人は、すぐに使ってしまえば問題ありません。

この「損したくない」という感情が、通貨の流通させるモチベーションにつながります。ただ、通貨を引き受ける側が「受け取りを拒否する」といった問題は発生するかもしれません。

## 発行の翌月は、ちぎらないと使えない

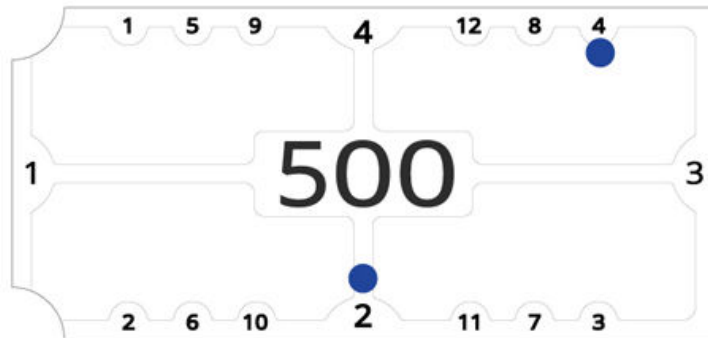


発行した翌月は、その月のちぎり線をちぎらないと使えません。  
ひとちぎり、100の減価となります。

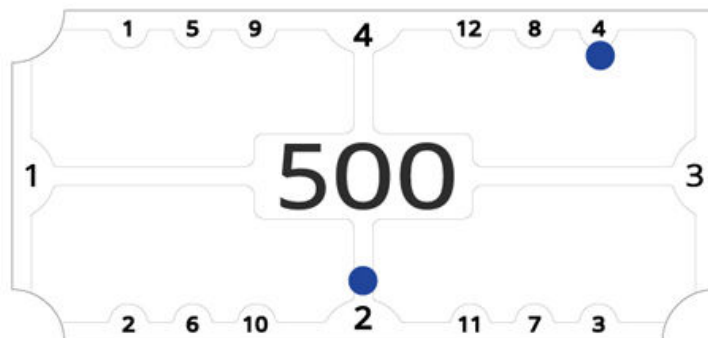
1つちぎりましたので、400の価値として利用できます。  
単位が円であれば、100円減価し、400円の価値になったこととなります。

## 次の月も以下同様

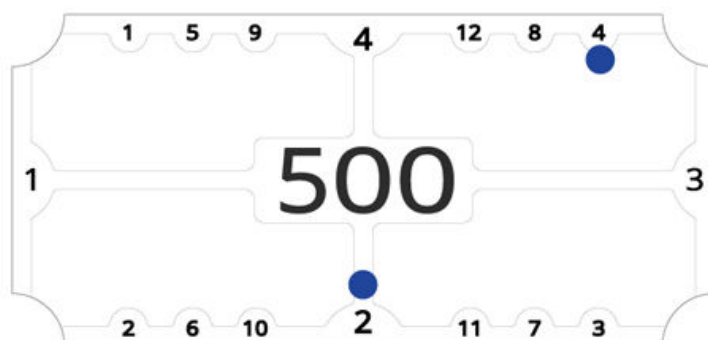
6月（発行月から2月目） 価値は300



7月（発行月から3月目） 価値は200



8月（発行月から4月目） 価値は100



9月（発行月から5月目） 価値は0

9月のところをちぎろうとしても、ちぎるところがありません。  
ちぎるところが無くなったら、価値は0。もう使えません。



## 紙幣であることの意味

「お金は情報」ですから、形は何でも構いません。金属でも紙でも、石でもパソコン上の数字でも構いません。構わないのですが…。

「通貨は信用」です。石ころを持ってきて「これがお金だ」と言ったところで、誰もお金だと信用しなければ、通貨として成り立ちません。

利用するのは紙切れですが、この真ん中に数字を入れることで、多くの人が「これがお金だ」と認識することになります。

通貨が紙幣であることの意味は、小さくないのです。

## 500 という単位の意味

通貨の額面も決まりはないのですが、ここでは 500 という数字を使っています。紙幣には4隅しかありませんので、隅をちぎって減価させるとなると、500 の単位しかありません。

そうした理由もありますが、500 という単位は「小さすぎず大きすぎない」値とも言えます。私達が使う円を考えれば、500 円というお金を組み合わせることで、生活に必要なものをほぼ揃えることができます。

様々な単位の通貨を発行できればいいのですが、管理の負担が増え、運営が大変になりますので、お勧めできません。

運営の負担を軽くするために、発行する通貨は一種類にしています。額面も小さすぎず大きすぎない 500 の単位を使用しています。

# 通貨の大きさ

通貨の大きさも決まりはありません。その縛りのなさが、かえって負担になります。

「大きさを決めなければならないのに、その理由が見つからない。どうしたらいいのだろう…」

通貨のサイズを決めるだけに、多くの資料に目を通しました。(結局、あまり参考にはなりませんでしたが)、今は次の大きさに落ち着いています。

横 148mm×縦 70mm

理由は2つあります。1つは「法定通貨の紙幣の大きさに近い」という理由です。「通貨は信用」ですから、人が手にしたときに、「これは通貨だ」と認識されなければなりません。そこで、現行の法定通貨に似た大きさにしています。

もう1つは、「誰もが発行できる通貨をめざしている」という理由です。多くの人が手に入りやすい大きさの紙と言えば、A4サイズのコピー用紙です。この大きさは、297mm×210mm。これを6等分すると、横 148mm×縦 70mm の大きさになります。

通貨発行は運営団体が行ないますが、運営団体がずっと活動できる保証はありません。緊急時に運営できなくなる可能性もあります。そのような場合にそなえて「誰もが家のパソコンを使って通貨が発行できる」という大きさにしています。

# 通貨の名称

通貨の名称は、運営される方の思いや目的によって、自由に決められたらいいと思います。

私達の発行している地域通貨の名称は「Let's 尊徳」(れつつそんとく)と言います。

Let's は、「Local Exchange Trading Scheme」の略で地域通貨のこと。  
尊徳は、二宮金次郎の尊徳でもあり、損得＝経済活動のことでもあります。

- ・ 地域通貨、尊徳
- ・ 尊徳の教えを実践しよう
- ・ 経済活動をしよう

「Let's 尊徳」には、そのような思いを込めています。